

丈夫な壁下地が基本

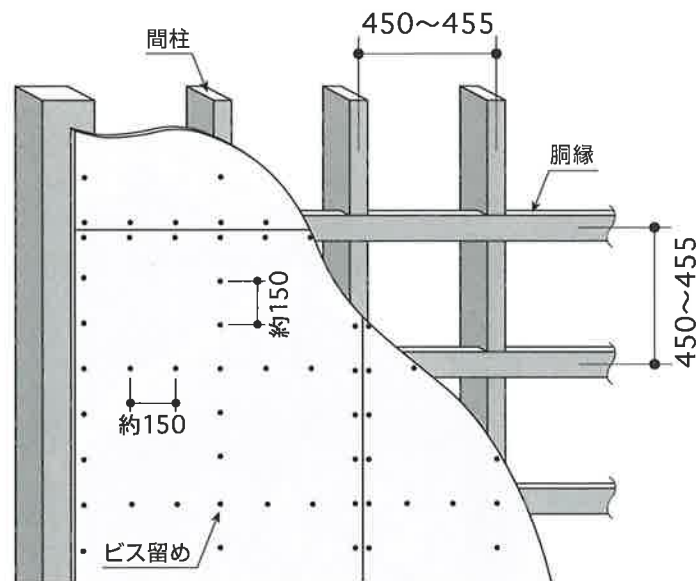
塗り壁にふさわしい下地作りを

珪藻土壁材〈エコ・クィーン〉は、樹脂を多用した材料とは違い、弾力性がありません。そのため、施工下地が動くとクラックが入ることがあります。クラックを避けるためには、下地の動きの発生を極力抑える工夫が必要です。

また、施工直後の震動などにも注意が必要です。施工から乾燥までの施工環境にもご配慮ください。

木下地

(木材の乾燥収縮による下地の動きを抑えるため、乾燥材の使用をおすすめします。)



- 施工する際のコテ圧等でボードがたわまないよう、ボードをしっかりと固定できる木下地を作ってください。
- ボードは、石膏ボード用ビスで約15cmの間隔で左図の様に打ち、段差なく平滑に貼ってください。

タッカー留め
くぎ留め



クロス用の壁下地は弱い場合が多く、補強が必要となります。
ボードがたわまない工夫をしてください。

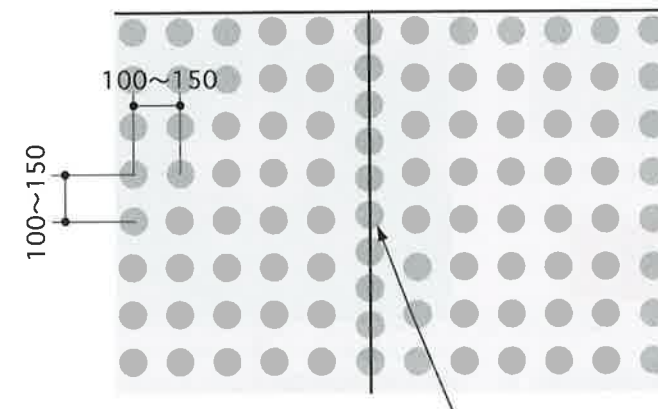
現在の建物は、クロス貼りを想定した軟弱な壁下地になっていることが多く(間柱のみの壁下地・タッカー留めされた壁など)、そのため、ボードがたわみやすく、クラックが入る恐れがあります。木下地に手を加えることが不可能な場合においても、クラック防止のための工夫をしていただきますようお願いいたします。

施工前に、ボードの取り付けを再度確認してください。

GL工法

GLボンドの接着箇所が少ない下地はボードの動きが発生しやすいため、施工はおすすめできません。

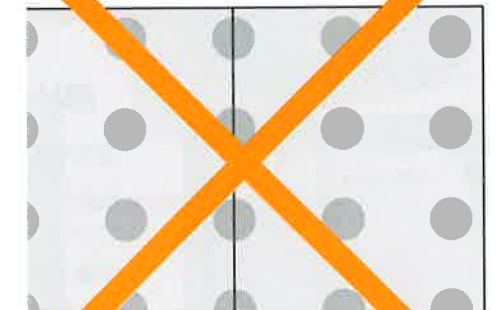
やむなく施工される場合は、
GLボンドの接着箇所を多くしてください。



※ ジョイント部にも、GLボンドを付けてください(またがせてください)。

GLボンドでの施工は左図の様に、GLボンドをボード全体に密に付けてボードが動かない(たわまない)ように施工してください。

ボンドの間隔が広い



鋼製下地

伸縮による動きや振動によるたわみが大きいため、施工はおすすめできません。

やむなく施工される場合は、縦・横両方向に
構造材を入れてボードを取り付けてください。

鉄骨造や軽量鋼製下地(LGS)は、振動や伸縮によるたわみにより下地に動きが発生する可能性が高く、ボードのジョイント部にヘアークラックが入る確率も高くなります。

